地方創生ＳＤＧｓフェス
紙のまちの魅力を全国に発信







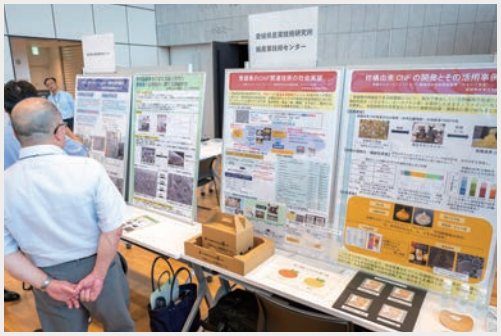
９月25日から３日間、全国各地の自治体が特色ある取り組みを発信する「地方創生ＳＤＧｓフェス in GOOD LIFE フェア2026」が東京ビッグサイトで開催され、本市の紙産業や書道文化の魅力を全国に向けて発信しました。

常設ブースでは、紙のまちミツマタ大使・大西満王（まお）さんによる手漉き和紙のワークショップを実施。日替わりブースでは、愛媛大学特別栄誉教授・内村浩美（ひろみ）さんによる機能紙を紹介するイベントのほか、書道家・青柳美扇（びせん）さんや松本蟻ケ崎高校元書道部顧問・大澤一仁（かずひと）さん、同校ＯＧらによる書道体験が行われました。

ステージでは書道パフォーマンスが披露されるなど、多彩な催しを通して本市の魅力を全国に発信しました。

四国ＣＮＦ展示会＆実用化事例紹介セミナー
ＣＮＦの今と未来に触れる

セルロースナノファイバー



９月16日、しこちゅ～ホールでＣＮＦに関する展示会とセミナーが開催されました。

展示会には、大学や企業などが出展し、ＣＮＦを活用した製品や研究成果などを紹介。セミナーでは、商品化に向けた取り組みや今後の展望などが紹介され、参加者はＣＮＦの活用や可能性について理解を深めました。

世界トップレベルの技を間近で体感
桃田賢斗（けんと）選手 バドミントンフェスタ



バドミントン元世界ランキング１位の桃田賢斗選手を招いた、バドミントンイベントが、９月26日に伊予三島運動公園体育館で開催されました。

桃田選手は、デモンストレーションで世界トップレベルの技を披露。実技指導やチャレンジマッチも行われ、参加者はその技術を間近で体感しました。

身近に迫る災害に備えよう
四国中央市防災訓練



10月３日、三島公民館と三島小学校で四国中央市防災訓練が行われ、約５００人の市民が参加しました。

公民館では、災害時を想定した避難所開設訓練を実施。小学校では、煙体験や消火器訓練、はしご車搭乗体験などを実施しました。

参加者はさまざまな訓練を体験し、災害への備えを学びました。

自身の健康を見つめる一日に
知って測って体験する 健康まつり



10月４日、市役所市民交流棟で「健康まつり」が開催されました。

各種健康チェックや体験コーナーなどが設けられ、参加者はさまざまな体験を通して自身の健康への関心を深めました。また、「野菜たっぷりレシピコンテスト」の最終審査も行われ、来場者による投票などを経て、各賞が決定しました。

※８ページに関連記事

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています

㈱松本コンサルタントが企業版ふるさと納税
未来を担う子どもたちのために

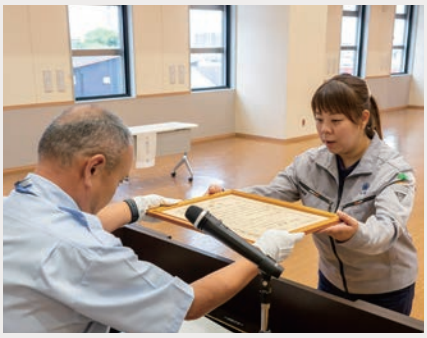


松本憲資 取締役副社長（写真中央左）、大久保裕司 取締役営業部長（写真左）、髙橋伸一呂 四国中央支店長（写真右）

徳島県に本社を構える株式会社松本コンサルタント（松本祐一代表取締役）から、企業版ふるさと納税制度を活用した寄付がありました。

9月14日の贈呈式に出席した松本憲資副社長は、「子育て支援に役立ててほしい」と思いを語りました。

3月に発生した倒木事故の負傷者を救助
2人の救助者に人命救助功労者表彰



9月16日に消防防災センターで開催された表彰式に出席し、内田消防長から表彰状を受け取る今城さん

今城可奈さんら2人は、運搬業務で山間部を走行中、伐採作業をしていた男性が倒木の下敷きになる事故に遭遇。119番通報後、倒木を取り除くなどの救助に当たりました。

この功績をたたえ、2人に内田消防長から人命救助功労者表彰が贈られました。

祝 全国ダンスコンテストで3位入賞
3人で掴んだ初の表彰台



写真右から 越智麻絢さん（新宮小5年）、越智咲絢さん（小富士小6年）、越智巴菜さん（寒川小4年）

市内のダンスチームWATLIKE COZが、8月に神奈川県で開催された「全国ダンスコンテスト2026全国決勝大会 小学生オープン部門」において、3位入賞を果たしました。

選手らは9月15日に市役所を訪れ、大会結果を報告し、華麗なダンスを披露しました。

祝 一戦一球に全力を尽くす
バレーボールクラブ東予が全国大会へ



東予4市の中学生で構成されるクラブ東予が、6月の「愛媛県ヤングクラブバレーボール選手権大会」で優勝を果たし、9月に大阪府などで開催された全国大会に出場しました。

9月17日、チームに所属する本市の中学生13人が市役所を訪れ、全国大会での活躍を誓いました。

祝 全国で一勝でも多く
柔道 石川 慶さんが全国大会へ



石川 慶さん（上分小6年）が、7月の「愛媛県柔道整復師会少年柔道大会 個人6年生の部」で優勝を果たし、11月に東京都で開催される全国大会（団体戦）の県代表に選ばれました。

石川さんは9月28日に市役所を訪れ、「一戦でも多く勝ちたい」と全国大会での活躍を誓いました。

祝 走り幅跳び&ジャベリックボール投げ
陸上 髙橋琢磨さんが全国大会へ



髙橋琢磨さん（川之江 TRACK & FIELD所属・妻鳥小6年）が、9月の「愛媛県小学生陸上競技交流大会 コンバインドB（混成競技）」で優勝を果たし、11月に東京都で開催される全国大会への出場を決めました。

髙橋さんは10月7日に市役所を訪れ、全国大会で自己ベストを目指すと誓いました。

ようこそ紙のまちへ！
オレワカレッジ生がホームステイ



10月６日、ニュージーランド国立オレワカレッジの生徒らが市役所を訪れ、大西市長を表敬訪問しました。

生徒らは同日から４日間、市内の家庭にホームステイ。新宮小・中学校や土居高校の児童・生徒と交流したほか、紙のまち資料館で紙漉きを体験するなど、日本の暮らしや文化に触れました。

より良い学習環境を
石川直子さんが教育委員に再任



９月28日、石川直子（なおこ）さんが教育委員に再任されました。石川さんは令和４年９月から教育委員を務めており、今回が２期目。任期は令和８年９月28日からの４年間です。

石川さんは「子どもたちにとって、より良い学習環境を整えていけるよう力を尽くしたい」と、２期目への思いを語りました。

「静電気の不思議」を学ぼう
徳島大学と連携した公開授業



10月２日、新宮小・中学校で市内の児童や同校への入学を考えている園児を対象に公開授業が行われました。

徳島大学の安野（やすの）卓（たかし）教授が講師を務め、空き缶など身近なものを使った実験を通して、静電気が起こる仕組みを紹介しました。

参加者は、大学と連携した同校ならではの学びを体験しました。

支え合い、共に暮らす地域へ
社会福祉大会&福祉フェスティバル



10月３日、しこちゅ～ホールで地域福祉の更なる充実を目指す福祉イベントが開催され、約４００人が訪れました。

会場では、福祉事業所などによるグルメ・物販・体験コーナーが設けられました。また、社会福祉大会では式典や記念講演も行われ、来場者は、福祉への理解を深めました。

資源の大切さを体感
カードゲームで考える持続可能な社会



９月17日、中之庄小学校の５年生を対象に、持続可能な社会を学ぶ出前授業が行われました。

児童たちは、資源を使って製品を作り、獲得したポイントを競うカードゲーム「Get The Point」に挑戦。ゲームを楽しみながら、資源の大切さや持続可能な社会について学びました。

かわしん感謝祭
地域に広がるにぎわいと学び



９月19日、本市と地方創生に関する包括連携協定を締結している川之江信用金庫（日浦博基（ひろき）理事長）が、しこちゅ～ホールで「かわしん感謝祭」を開催し、多くの来場者でにぎわいました。

本市も起震車による地震体験や消防車両の試乗体験コーナーなどを設け、防災意識の向上を呼び掛けました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています

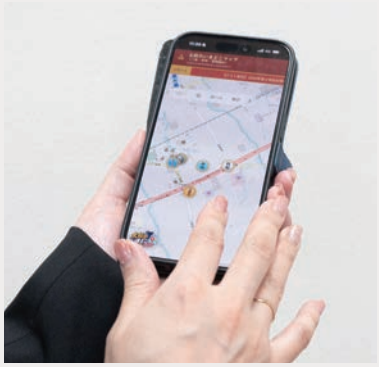
ちょっとそこまで 広報SAMPO

太鼓台の現在地を「見える化」
太鼓台いまどこMAP 実証開始

9月30日、市観光協会（井原司会長）と株式会社四国中央テレビ（井上仁代表取締役社長）が共同開発した「太鼓台いまどこMAP」の報道発表が行われました。

このサービスは、秋祭りの太鼓台にGPS端末を取り付け、スマートフォンなどからおおよその現在地を確認できるものです。今年の秋祭りでは、伊予三島地区と土居地区の一部（畑野・小林・上天満・野田）で実証が行われ、太鼓台の位置を確認する新たなサービスとして活用されました。

今後は市内各地区の秋祭りへの展開なども検討されています。



令和8年熊本地震

被災地支援の現場から

被災地で支援に携わった職員たちが、現地での活動や感じた思いを伝えます。

トイレ支援

支援期間

令和8年8月6日～25日

活動内容

八代市の避難所に災害用トイレトレーラーを設置し、被災地のトイレ環境の確保を支援しました。

派遣職員

1班 青木 予防課 / 宮岡 財政課
2班 長野 危機管理課 / 石井 国土管理課
3班 佐藤 危機管理課 / 金子 同左
4班 山下 危機管理部 / 宮﨑 警防課

給水支援

支援期間

令和8年8月2日～23日

活動内容

八代市や八代郡氷川町で、自衛隊や全国の自治体などと連携し、給水支援活動に当たりました。

派遣職員

1班 篠原 水道総務課 / 北嶋 上水道課
2班 堀川 上水道課 / 渡部 下水道課
3班 吉岡 水道総務課 / 菊池 上水道課
4班 高橋 上水道課 / 仙波 下水道課
5班 合田 上水道課 / 山川 工業用水課



教訓を未来の備えに

危機管理課　長野

熊本地震の被災地でトイレトレーラーの支援に当たり、避難所の皆さまの切実な表情が今も脳裏から離れません。確実な情報伝達や受援体制、設備管理の教訓は他人事ではありません。この経験を風化させず、本市の防災力強化と環境改善に全力を尽くします。

北関東のパートナー

逆風満帆！

四国中央市長　大西賢治



東京出張の折に足を伸ばして、群馬県の館林市を訪ねた。国道11号バイパスの事業促進などの陳情の機会を利用した、馴染みの薄い北関東への訪問だ。

今年度、総務省や県のお骨折りで「南海トラフ地震における応急対策職員派遣制度アクションプラン」により、愛媛県が重点受援県となる際の即時応援県として群馬県が指定された。県によって5月に、四国中央市のパートナーとして、館林市が選ばれた。有事の際の迅速かつ円滑な受援のためには、平時から両市間で支援ニーズの把握や意見交換などを行い、「顔の見える関係を構築しておく」ことが求められるが、これまでご縁の無かった遠隔地の自治体との関係構築は、決して容易ではない。言うなれば、お見合いやマッチングアプリで縁談が調ったような緊張感だ。

館林市の多田善洋市長とは、運良く6月の全国市長会議の会場で名刺交換をし、挨拶を交わすことができたものの、同市の土地柄や気候風土、歴史文化、産業経済の特色など、全く未知の世界であった。

今回は、各地で容赦なく災害が頻発していること、市議会でご質問戴いたことなどを受け、「善は急げ」の思いで上州つまり上毛野国に足を運んだ。

電車でのアクセスは、浅草から東武伊勢崎線の特急で約1時間、東京駅からでも約1時間20分の好立地にある。市長を表敬訪問した僅か3時間の滞在だったが、市役所での情報交換の後に市長自らが1時間余り市街地を車で案内して下さるなど、相澤副市長以下幹部職員も伴った丁重な応対に接した。

館林の「里沼」は日本遺産に認定されており、沼と川を天然の要害とした城址に立派な市役所がある。国の名勝に指定された「つつじが岡公園」をはじめ、四季折々に自然の豊かさを満喫できる名所が溢れており、是非みなさんにも訪れていただきたい魅力的なまちである。

もし北関東のパートナーが水害に見舞われたら、いち早く駆け付けるんだ！その心意気が相手に伝わって初めて、我がまちの安心・安全を支える信頼関係が築かれる。先ずは危機管理部に有事を想定して上州へ走ってもらうこととする。